

新しい時代の社会教育を、体験活動から



那須塩原市
那須塩原市生涯学習課

13班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科
指導教員
佐藤穂波・金子海夕・浦山夏美
猪原照子・望月菜央・立石陽樹
高橋悠希・工藤淳平
大嶽陽徳

01 背景

○那須塩原子どもカレッジとは
質の高い体験活動の実施による
・質の高い社会教育の実現
・市の教育のさらなる発展
を目的に那須塩原市が取り組む

文部科学省も推奨する重要な社会教育
プログラムだが、効果的で質の高い体
験活動は明確ではない

02 目的

体験活動により子どもたちの非認知能力を育むことをねらいとする本プログラムに参加し、事前調査として評価分析の上、プログラムを実施・分類、再評価を通して、質の高い体験活動への提言をする

03 事前調査 【1st Cycle】

※以降、06 提案における表と★●●は対応する

3-1 定義づけ
活動を始める前に用語の定義づけを行い、チーム内での共通理解を図った。

○**非認知能力**とは
学力では測れない社会で生き抜く力

○**体験活動**とは
自分の体を通して実地に経験する活動のこと
→質の良い体験活動とは非認知能力を伸ばせる活動

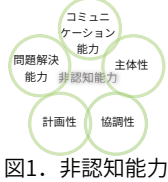


図1. 非認知能力

3-2 第1回・第3回 参与観察

【第1回】
子どもたちの様子を観察、図1の5つの項目で評価↓
・問題解決能力や主体性→確認、「協調性」→課題あり
・料理や屋外レクリエーションへの関心が見られた★

【第3回】
魚釣り＝スキルが必要な内容↓
・得意な子と不得意な子の間で教え合いのコミュニケーションがあった
・各個人が目標達成のために自分の時間を使っていた
以上の事前調査結果を基に、第4回の企画運営を通して本プログラムを評価分析することとする

04 方法 【2nd Cycle】

4-1 第4回の企画・実施

○課題/テーマ「協調性を伸ばす」
○プログラム内容
・カレー作り & 草木染め & シンボル(横断幕)づくり★
→個人/グループ/参加者全員で活動する時間を設ける



1日の流れ



○意図

- ・料理および創作活動による協働を期待
- ・複数の活動に子どもたちが流動的に取り組むことで友だちの垣根を越え、人とかかわる機会をより多くする

05 分析結果 【2nd Cycle】

5-1 第4回実施時の参与観察と事後調査結果

○体験活動の効果（第4回参与観察より）
第4回の企画評価
→協調性△、自主性や主体性、コミュニケーション能力◎
☆じっくり取り組める時間や子どもたちの挑戦しやすい難易度を意識
→協調性の向上に効果的

○子どもたちの関心（なしお博での事後調査より）
・子どもたちの身近な活動（難易度低）
→協調性の向上に効果的
・子どもたちの身近ではない活動（難易度高）
→主体性や問題解決能力などの向上に効果的



子供たちの関心を見るアンケート

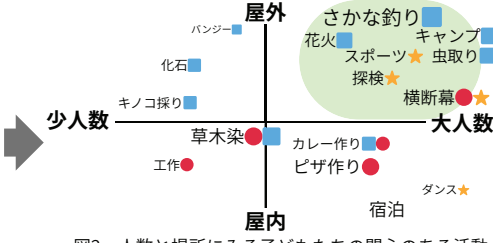


図2. 人数と場所に見る子どもたちの関心のある活動

06 提案

6-1 質の高い社会教育について子どもカレッジのケースから考える

質の高い社会教育は、体験活動などを通して子どもたちの自主性を育むことや社会性を身につけることである。本取組において子どもたちの意欲的な活動への参加で自主性を育む様子が確認できた。また、参加者に合わせた活動をプログラムの特徴により組み替えて行うことが重要である。具体的には、以下のように効果を最大化できるように意識すべきである。

特徴別分類	道具等のスキルが必要なアクティビティ	体を動かすレクリエーション★	工作など屋内でできる創作活動●
期待できる効果	主体性・問題解決能力の向上	主体性・コミュニケーション能力の向上	計画性・協調性の向上
注意点・重要点	用意するモノやスキルの偏りに注意 個人の能力を伸ばすことが重要	安全への配慮やルール設定の補助が必要 参加者の発想や意思を尊重することが重要	交流する機会を持てることが必要 目標に向けた取り組みにすることが重要